

企業訪問 資源循環レポート

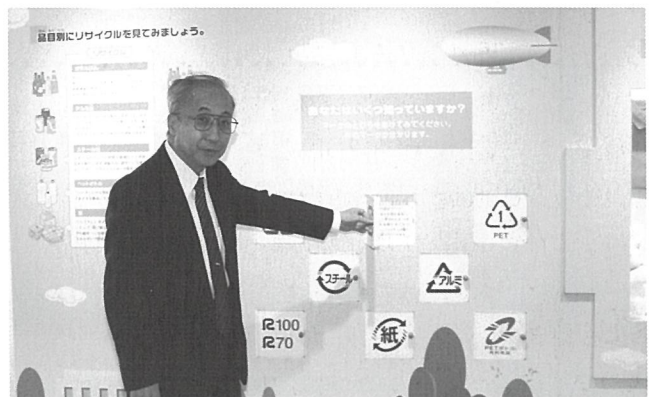
福田三商（株）

「紙源」を極める 名古屋から世界へ 地球を救う業界としてのプライド

福田三商（株）

昭和11年名古屋市西区にて製紙原料商として福田商店を創業。数回他社との合併を経て、昭和44年新社名福田三商（株）として発足、本社を名古屋市南区に置きました。福田三商は創業約70年、古紙のリサイクルを通じて社会貢献を目指し、古紙資源の安定回収、安定供給のシステムを構築してきました。

本社社屋は、名古屋市南部の工業地帯の一角、交通アクセスに優れた国道1号沿いにあり、施設の紹介は福田三商（株）執行役員管理部長 清水 稔氏にお願いしました。



清水管理部長に「古紙の森」を案内していただきました。

「古紙の森」は、本社3階にあり、未来を担う子どもたちにリサイクルの仕組みを分かりやすく紹介する、日本で唯一のミュージアムです。地球温暖化による気候変動を身近な問題として捉えられるよう、資源のリサイクルについて展示を行っており、教育機関、地域団体、企業研修等、多数の見学者が来館しております。

環境と古紙のリサイクルについて、楽しく学べるショールーム

「古紙の森」の見学コースは始めに、環境について、“地球のSOSが聞こえますか？”と問いかけ地球を救うために、“リサイクル”へと導きます。このコーナーでは、4R（リサイクル、リユース、リデュース、



古紙回収フロアのジオラマ

福田三商 株式会社

■代表者／齋藤 武

■所在地／名古屋市南区千電通2-14-1

TEL 052-825-2111 FAX 052-825-2177



愛知環境賞の名古屋市長賞受賞



古紙から生まれた緩衝材等



福田三商の紹介

リフューズ)の取組を紹介し、次に“基礎知識”として、リサイクルマークの意味を学習します。展示物の各マークには開閉扉が付き、楽しみながら説明を読むことができます。そして“古紙のリサイクル”では、古紙から再生されたお菓子の箱、段ボール、緩衝材、包み紙等の再生品が展示されており、リサイクルが身近で行われていることを知ります。名古屋市のリサイクルは全国的にもトップクラスといわれ、名古屋市分別回収の基準は、他の市町村に比べて厳しいことで有名だそうです。また一家庭の一年分の古紙は、樹齢20年の杉(高さ約8m)3本分の紙が作れるということです。“情報コーナー”では、リサイクルの歴史をパネルに表示しクイズが出題されますが、つい大人も本気で取組みたくなるような問題もあり、年齢問わず楽しめるコーナーでした。次に、古紙回収業界、古紙問屋業界、廃棄物業界を紹介し、古紙がリサイクルされるまでの流れを図解で紹介。パネル展示の締めくくりとして“福田三商”について、会社の歴史、新機械のシステムの開発、機密書類のセキュリティを遵守した回収・処理、海外での活躍について等、創業70年のリサイクルへの真摯な取り組みが列挙されていました。

スモールタウンでリサイクルのアルゴリズムを学ぶ。

ショールームの中央に配置されたジオラマは、福田三商から回収車が古紙の回収をするフローが再現され、各所で子どもが興味を引く工夫がされています。車の動き、店舗のドアの回転、ライトの点滅、

ベルトコンベアの流れが全て自動制御されており、パネルで得た知識が現実に投影された視覚



ジオラマの中を走るパッカー車

化により、更にリサイクルに対する関心を高めるジオラマ作りが展開されていました。

広報ビデオに見る画期的な開発

ショールーム見学後は、別室にて福田三商の広報映像を拝見しました。福田三商はいくつもの「世界初」を発明し、古紙業界のイニシアティブを取っています。昭和50年台前半の大型ラージバール国産第1号機開発設置を皮切りに、自動計量・ナンバー自動認識システム、自動計量システム、計量機付きパッカー車、グリーンバッグ、大型古紙梱包機他が会社の顔となっています。

見学を終えて清水氏より、「IT化により、古紙の発生量は減少している中、行政・市民・企業の協力のもと、古紙回収率は80%を超えてきました。当社でもCSRに力を入れ、資源リサイクルを独自のノウハウでバックアップし、世界規模で高まる古紙リサイクルのニーズに対応するべく、日々研究開発を行っています。古紙リサイクル先進国として、地球環境と世界経済を支援することが当業界の企業責任ではないかと考えております。」と福田三商プライドを語られました。



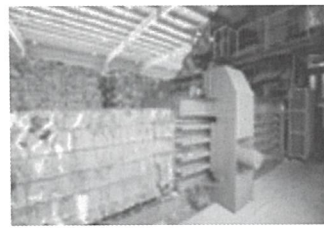
自動計量・ナンバー自動認識システム



計量機付きパッカー車



グリーンバッグ/らくらくバッグ



大型古紙梱包機